

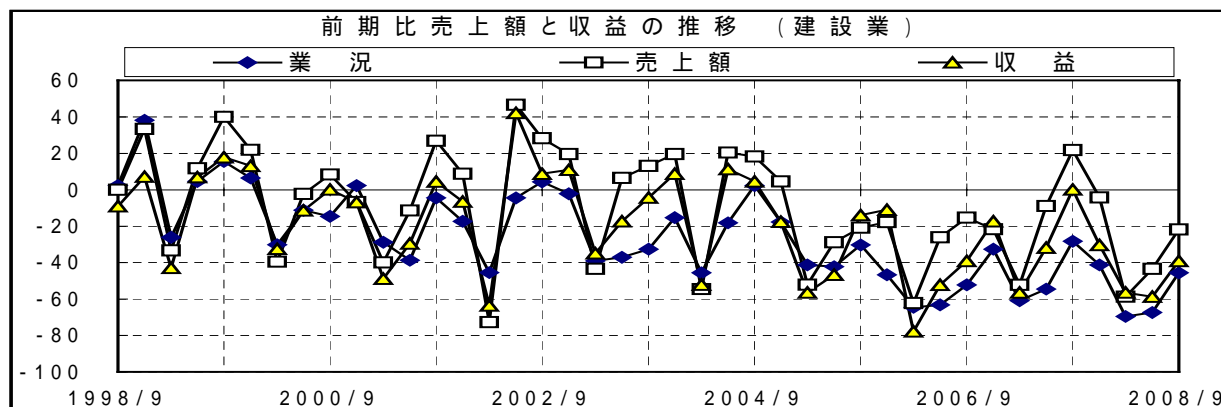
建設業 46 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-69.6	-67.4	-45.6	-58.7
売上額	-58.7	-43.5	-21.8	-30.5
収益	-56.5	-58.7	-39.2	-37.0

今期の業況判断DI値は 45.6 と、前期比 21.8 ポイント改善したが、過去 10 年間同期の中では平成 18 年に次ぐ低い水準となった。地区別にみると、前期比横ばいとなった様似地区以外は改善し、三石、えりも地区ではマイナス幅が大きく縮小している。

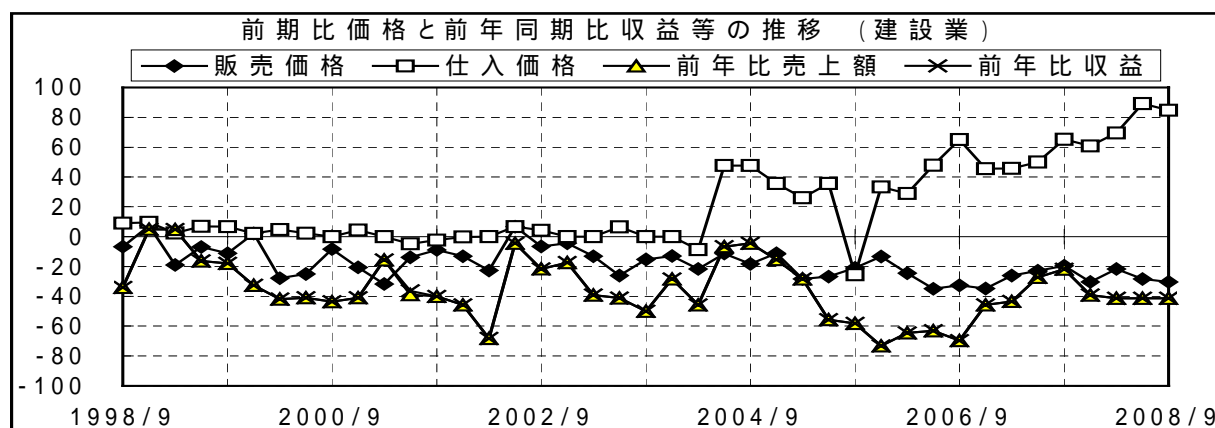
売上額、収益判断DI値は、売上額 21.8、収益 39.2 と、前期比マイナス幅が縮小しそれぞれ 21.7、19.5 ポイント上昇した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
請負価格	-21.7	-28.3	-30.4	-28.3
仕入価格	69.5	89.1	84.8	50.0

請負価格判断DI値(30.4)は、前期比マイナス幅が 2.1 ポイント拡大、価格低下基調が強まっている。一方、仕入価格判断DI値(84.8)では、前期比プラス幅が 4.3 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まっている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-23.9	-37.0	-19.6	-23.9
人手状況	28.3	41.3	23.9	15.2

残業時間判断DI値は 19.6 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 17.4 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 23.9 と、前期比プラス幅が 17.4 ポイント縮小、人手過剰感が弱まっている。

設備投資の動き

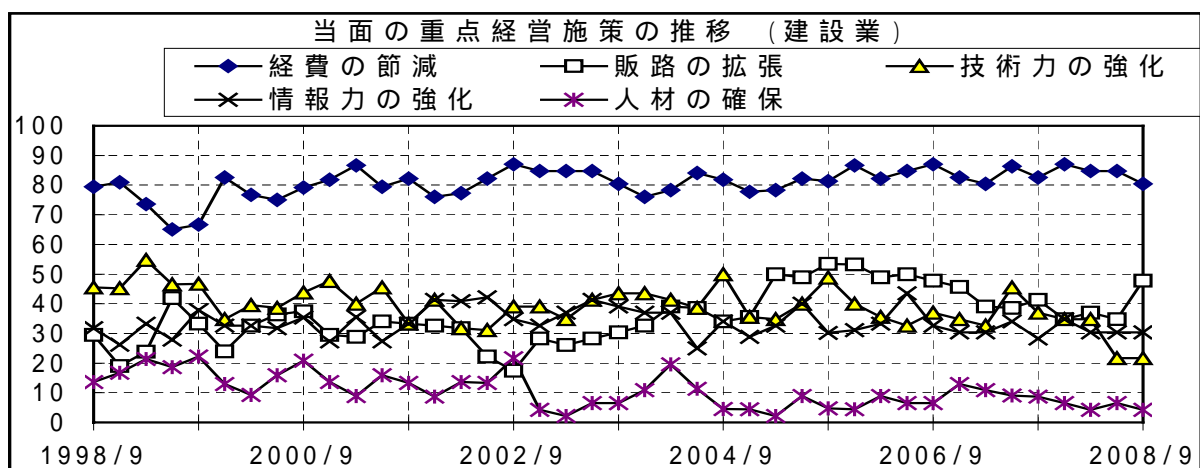
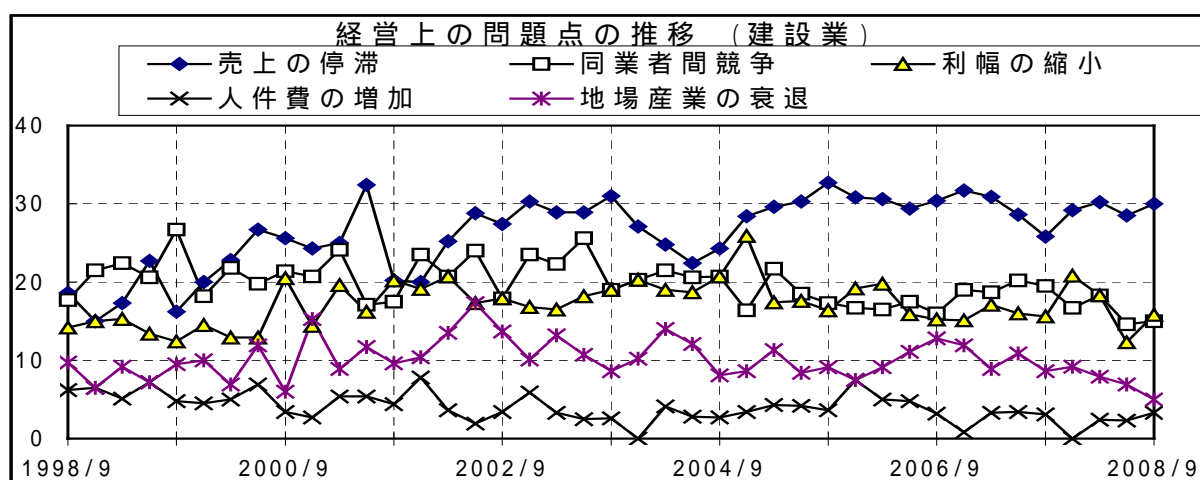
設備投資の充足感を示すD I値は13.0と、前期(19.6)からプラス幅が6.6ポイント縮小し過剰感が弱まる一方、適正と回答した企業は82.6%で、前期(71.8%)から10.8ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は13.0%と、前期(19.6%)比6.6ポイント低下し件数で前期の9社に対し6社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の5社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ30.0%、次いで「材料価格の上昇」16.7%、「利幅の縮小」15.8%、「同業者間との競争」15.0%の順に続き、前期との比較では「利幅の縮小」と回答する企業がやや多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業が「売上の停滞」、設備工事業が「売上の停滞」、「材料価格の上昇」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ80.4%、次いで「販路を広げる」47.8%、「情報力の強化」30.4%、「技術力を強化する」21.7%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業で「経費の節減」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(20年10~12月期)の予想業況判断D I値は58.7と、今期(45.6)実績比13.1ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が30.5(今期21.8)で今期実績比8.7ポイントの低下、一方、収益は37.0(今期39.2)で今期実績比2.2ポイントの上昇を見通している。

予想請負、予想仕入価格判断D I値は、請負価格が28.3(今期30.4)で今期実績比マイナス幅が2.1ポイント縮小、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は50.0(今期84.8)で今期実績比プラス幅が34.8ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

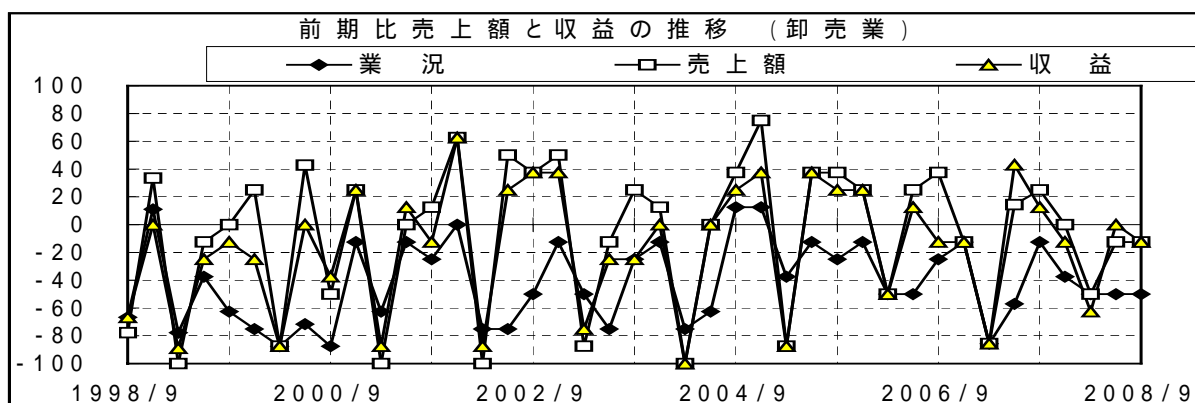
景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0
売上額	-50.0	-12.5	-12.5	0.0
収益	-62.5	0.0	-12.5	0.0

今期の業況判断DI値は 50.0 と、3期連続横ばいの低い水準にとどまっている。地区別に見ると、前期比様似地区が改善し、静内、三石地区が横ばい、浦河地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 12.5 で前期比横ばいとなった一方、収益は 12.5 で

前期比 12.5 ポイント低下しゼロからマイナス水準に転じた。

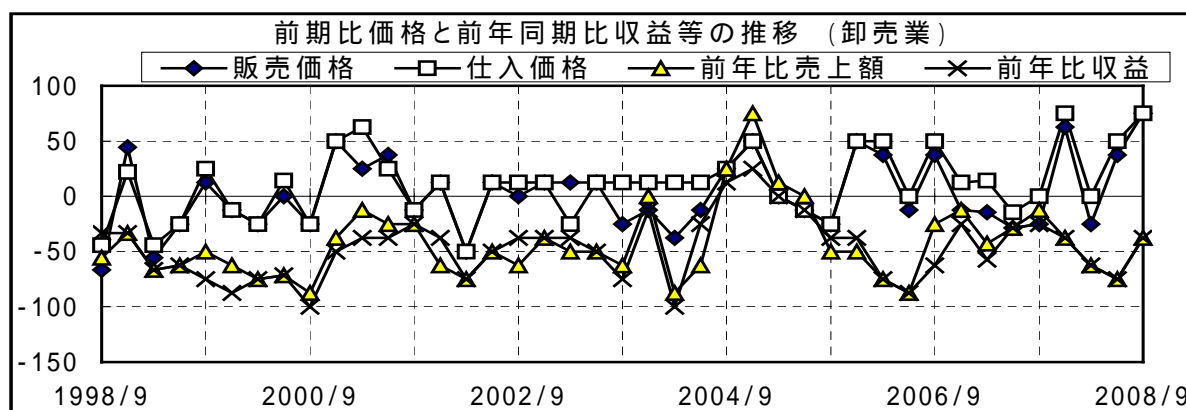


価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-25.0	37.5	75.0	12.5
仕入価格	0.0	50.0	75.0	25.0

販売価格判断DI値(75.0)、仕入価格判断DI値(75.0)は、前期比プラス幅がそれぞれ 37.5、25.0 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別に見ると、前期比農産・水産物は販売、仕入価格判断DI値ともに横ばい、食品は販売、仕入価格判断DI値ともに上昇している。

格判断DI値ともに上昇している。



雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-12.5	0.0	0.0	12.5
人手状況	25.0	12.5	12.5	-12.5

残業時間判断DI値は 0.0 と、前期に引続き残業時間が変わらずとするゼロ水準となった。

人手過不足判断DI値は 12.5 と、前期比人手過剰感が横ばいとなっている。

設備投資の動き

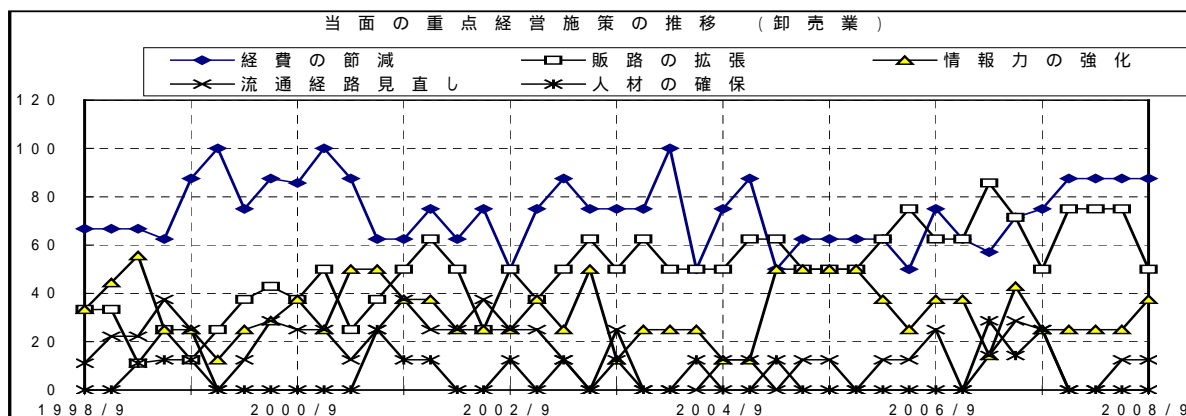
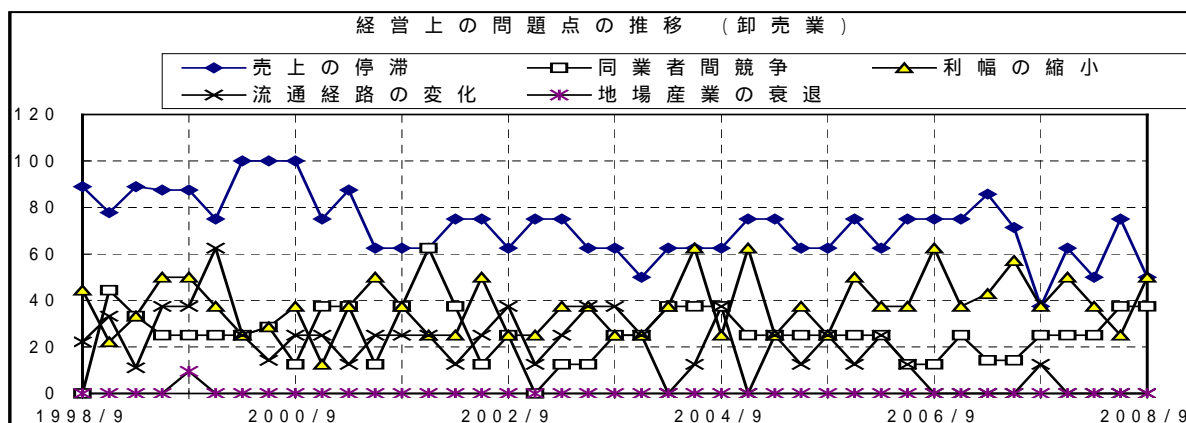
設備投資の充足感を示すD I値は12.5と、前期(25.0)比37.5ポイント上昇しマイナスからプラスに転じ過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は87.5%で、前期(75.0%)から12.5ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は25.0%と、前期(25.0%)比横ばいの2社の実施となった。一方、来期予定では当期比1社減の1社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」、「利幅の縮小」をトップに挙げ50.0%、次いで「同業者間競争」、「取引先の減少」37.5%の順に続き、前期との比較では、「利幅の縮小」、「取引先の減少」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産物が「利幅の縮小」、食品が「取引先の減少」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」50.0%、「情報力の強化」37.5%の順となっている。業種別にみると、農産・水産物が「経費の節減」、食品が「経費の節減」、「販路を広げる」、「情報力の強化」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(20年10~12月期)の予想業況判断D I値は50.0と、今期(50.0)実績比横ばいの低い水準見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額0.0(今期12.5)、収益0.0(今期12.5)と、それぞれマイナスからゼロ水準に転じ今期実績比ともに12.5ポイントの上昇を見通している。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格12.5(今期75.0)、仕入価格25.0(今期75.0)と、今期実績比プラス幅がそれぞれ62.5、50.0ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。